

アートコレクターのための学校「グローバル編」

2025年4月開講！募集要項

概要：

国際文化会館では、日本から志あるコレクターを育成するため、アート・デザイン部門ディレクターの長谷川祐子による、「アートコレクターのための学校」を開校することになりました。

「アートコレクターのための学校」では、これからの時代を担うコレクターに向けて、アートの価値の捉え方や美術史の流れ、そして自分自身のコレクションをどのように築くかを学ぶ機会を提供します。

2000年代に入ると、グローバリズムの影響を受け、美術史も多文化的（multicultural）な視点で捉えられるようになりました。主要な美術史の流れを理解し、特に近現代において西洋美術史がどのように価値を築いてきたのかを知ることは重要です。一方、西洋一元的な価値基準だけではなく、多様な価値も共存する時代となった今、現代アートのコレクションにおいても、単一の価値基準に依存せず、より広い視野でアートの選択と評価を行うことが求められています。このような背景の中で、現代のコレクターは、複雑な諸相を読み解き、自分自身でアートの価値を判断しなければなりません。この学校では、コレクターとしての視点を養い、3つのS（Style, Story, and Sensibility）を通じて、自分のテイストを明確にし、アートを通じて自身の内面を表現する方法を学びます。

今回主な対象としているのは、アートコレクションに対して一歩踏み込んだ姿勢を持つアントレプレナー（起業家）の方々です。彼らは自身の価値観やライフスタイルに基づいて、どのようにコレクションを展開していくかを判断し、アートの世界に新たな価値を創出しようとしています。コレクターとしての活動は、単なる美術品の収集に留まりません。それ自体が美術史の一部となり、歴史を語り、形作るものです。コレクター自身がその一部として、美術の歴史に対して積極的に関与し、社会貢献へと繋がる意識を持つことが求められます。従来の「属人化された」コレクション活動を超えて、個々のコレクションがどのように社会に貢献する在り方を探求します。

質疑応答を含む90分のセッションでは、長谷川ディレクターを筆頭に講師陣から直接アートの世界観やコレクション活動に関する実践的な知見を提供します。さらに、グローバルアートの視点として、アフリカや南米のアートについても学び、実際に動画などでアーティストや専門家に話していただく機会を設けます。アートコレクションを通じて、自身の表現力を高め、社会貢献へと繋がる活動をしていきたいという熱い想いを持った皆様にとって、有意義な学びの場となることでしょう。

カリキュラム：

第一回：2025年4月25日(金) 7pm
開校式/オリエンテーション「アート of 現在：コレクションの出発点に」 長谷川 祐子 （校長、国際文化会館アート・デザイン部門ディレクター、東京藝術大学 名誉教授、美術史・キュレーション論） ▶美術史の中で価値がどのように形成されてきたかを近代から現代にいたるまで概観します。そのうえで、多様化する現在のアートを構成している諸要素や背景を明らかにしていきます。
第二回：5月30日(金) 7pm
「モダニズム～抽象絵画、ミニマルアートを中心に」 加治屋 健司 （東京大学 大学院総合文化研究科 教授、表象文化論・現代美術史） 1995年、東京大学教養学部教養学科表象文化論分科卒業。1998年、東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻修士課程修了。2014年、ニューヨーク大学大学院美術研究所より博士号取得（美術史）。2016年より東京大学大学院総合文化研究科准教授を経て2019年より教授。 ▶第二次世界大戦後のアメリカ美術から出発し、グローバル・モダニズムにおける美術の理論、実践、そしてアーカイヴまで、幅広い研究を行う加治屋氏。近現代のアートとは何か、受講者とのディスカッションや問いかけを通じて探求する授業です。
第三回：6月20日(金) 7pm
「イスラム美術と絨毯を通じたグローバルアートヒストリー」 鎌田 由美子 （慶應義塾大学経済学部 准教授、美術史学） 2002年、慶應義塾大学文学部哲学科美学美術史学専攻卒業。2004年、東京大学大学院人文社会系研究科美術史学修了。2011年、ニューヨーク大学大学院美術研究所より博士号取得（美術史）。2014年より慶應義塾大学経済学部専任講師を経て2017年より准教授。 ▶イスラムの美術および、絨毯を通してイスラム紋様の中国、そして江戸時代の日本の工芸品への影響を研究する鎌田氏。美術史がどのように文化交流で作用してきたか、グローバルな視点で見つめ直す授業です。
第四回：7月25日(金) 7pm
「日本の美術作品はどう価値づけられてきたか、近代以前から戦後、現代へ」 佐藤 道信 （東京藝術大学 名誉教授、美術史学） 1979年、東北大学文学部東洋日本美術史専攻卒。1981年、東北大学文学部大学院修士課程修了。1994年、東京藝術大学美術学部助教授を経て2007年より准教授、2009年より教授(2024年退官)。 ▶いま日本で当たり前に使われる美術用語やジャンルが生まれた明治時代の中心に、日本の近代化における美術の役割と変遷を多角的に分析してきた佐藤氏。日本の近代美術の作品が内外でどのように評価されてきたかの歴史を通じ、「日本美術のアイデンティティ」に迫る授業です。
第五回：8月29日(金) 7pm
「アジアの現代アート」 Yu Jin SENG （Director of Curatorial, Research & Exhibitions, National Gallery Singapore） 2019年、メルボルン大学より博士号取得。その後 LASALLE College of the Arts にてアジア美

術史（大学院）、シンガポール国立大学の美術史プログラムを担当し、2024年より現職。
▶ディアスポラ、移民、文化移転といったテーマで、現代の東南アジアにおける展覧会やアーティストコレクティブを研究するセン・ユジン氏。東南アジアの多様な文化と、同様に多様な美術活動において、どのように価値が形成されているかを共に探ります。

第六回：オプション（日時は開講後に調整）

「演習」長谷川 祐子

第七回：9月26日(金) 7pm

「まとめ」長谷川 祐子

*やむなく欠席される場合は次回までに講義の記録動画をご覧ください。鍵付きリンクをお知らせいたします。動画は他の方と共有しないようご注意ください。

受講料：50万円（不課税、全6回+オプション1回）

会場：国際文化会館2階 ZEN

応募締め切り：3月31日

参加資格：美術コレクションを持っている方、これからコレクションを始めようと考えている方

定員：10～12名

応募方法：紹介制。紹介者のお名前、本人の関心分野と期待することなど（200～400字程度）、簡単なプロフィールを添えて、事務局までお申込みください。件名を「アートコレクターのための学校」とし、こちらの[お問合せフォーム](#)からご連絡ください。事務局からのお返事、および授業料の納金確認をもって申し込み完了とします。

用語：日本語

お問合せ：

公益財団法人[国際文化会館アート・デザイン部門](#)

〒106-0032 東京都港区六本木5-11-16